

所得税および 住民税の申告はお済みですか

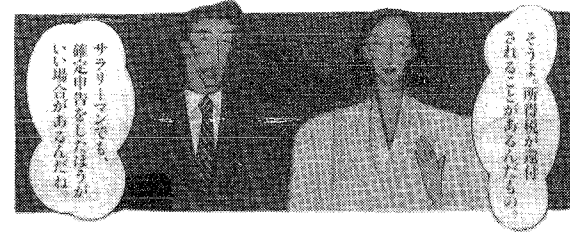
申告期限 3月15日(水)

平成6年分の申告については2月号の広報でお知らせいたしました。2月16日から受付が始まり、3月15日が申告期限です。申告は、自分の所得の状況を最もよく知っている納税者自身が、自ら自分の所得を正しく計算して申告する制度です。3月15日の申告期限内に必ず申告されますよう、お願いいたします。

▼正しい申告を!

所得税は、自分の所得と税額を正しく計算して納税するという「申告納税制度」を採用しています。

確定申告をしなければならぬ方が申告しなかったり、誤った申告をしますと、後で不足の税金を納めるだけでなく、不足額の15%または10%の加算税が課され、更に、年利14・6%の延滞税も納めなければならぬこととなります。

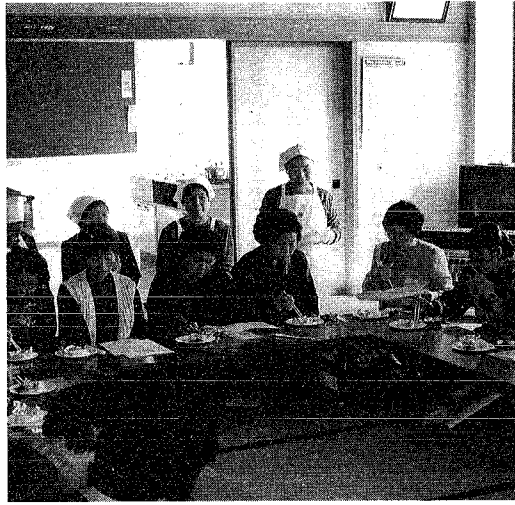


サラリーマンでも、確定申告をしたほうがよい場合があります。

さくらんぼが育ち、さくらんぼが実るころです。

みなさんの骨は大丈夫?

2月20日と21日に水田と鎌倉地区で健康教室が開催されました。私達の骨の量(強さ)は、30才代でピークになります。その後徐々に減って、年をとるにつれ背中や腰が曲がったり、骨折しやすくなったりします。今回は、骨を丈夫にして生き生きとした老後を送るために、日頃の生活の注意を学びました。保健婦が血圧測定や骨を丈夫にする生活の工夫について話した後、食生活改善推進委員による試食会が行われました。カルシウムのたっぷり入った料理で大変好評でした。



軽自動車税の 申告について

3月31日(金)までに...

軽自動車税は、定置場の市町村がその所有者に課税することになっており、異動(取得、廃車、使用者変更、住所変更等)の都度、必ず申告手続も行わなければならない。特に、農耕用自動車(トラクター、コンバイン)については、取得、廃車、転売等された場合で、未申告が目立っております。また、死亡、転出された方の所有する軽自動車も、変更手続されず、そのままになっているものがありますので必ず手続きをしてください。

申告書の提出先

- ◎ 原動機付自動車、農耕用自動車(役場で標識交付されたもの)
 - ◎ 小須戸町役場税務課
 - ◎ 軽四輪車、軽三輪車
 - ◎ 全国軽自動車協会連合会新潟県事務取扱所大形連絡所
 - ◎ 軽自動車(二五〇cc以下)
 - ◎ 二輪の小型自動車(二五〇cc以上)
 - ◎ 新潟運輸局新潟陸運支局
- なお、各軽自動車の申告手続は3月31日(金)までに済ませてください。

車検のための 納税証明書は

自動車の継続検査(車検)を受けるときは、自動車税の納税証明書が必要です。自動車税の納税通知書に組み込まれている「自動車税納税証明書(継続検査用)」は、金融機関の領収印の押印により納税証明書となりますので、自動車検査証と一緒に保管してください。

献血功労者表彰される



去る2月16日(水)、小須戸町役場の町長室において、献血功労者表彰の伝達式が行われました。今回表彰を受けたのは、次の方々です。

- ◎ 大貫 茂さん (150回)
- ◎ 佐久間優一さん (30回)
- ◎ 柳通 美子さん (30回)

これからもみなさんのご協力をお願いします。

鬼は外... 福は内...



「おにはーそと」「ふくはーうち」
2月3日、小須戸幼稚園で豆まき会がありました。クラスの代表5人ずつが豆をまく係になり、鬼役の先生と園児目がけて豆をぶつけます。鬼は豆があたっても、楽しそうに逃げ回っていました。

三寒四温

三寒四温は、中国の北部や朝鮮半島の冬の自然現象で、これらの地域でいわれている諺です。三日寒い日があった後、四日暖かい日が続き、これを交互に繰り返すというものです。寒暖に七日くらの周期があるわけですが、日本でもみられる現象ですが、中国の北部や朝鮮半島よりも、規則性ははっきりしないようです。というのも、日本の冬の天候は、中国北部などと同じようにシベリア大陸の高気圧の影響を受けますが、太平洋高気圧の影響も受けま

す。このため、三寒四温の規則性がありません。日本に三寒四温が現われるのは、ひと冬に一回あるかないかだといふ文献もあります。しかし、寒さが厳しいとき、「三寒四温」といふから、まもなく暖かくなるよ」などと、言われた記憶をもつ人も多いでしょう。だから、日本人は冬から春先にかけて、三寒四温をいつも肌で感じていたような気がするのでしょうか。ところで、俳句では「三寒四温、または単に「三寒」「四温」は、冬の季語になっています。

雪原の三寒四温 浅間噴く
白珠の 四温の星のうるむ 遷子
白珠の 四温の星のうるむ 遷子
ところで、三月二十三日は「世界気象デー」です。世界気象機関(WMO)の条約が発効した日を記念したものです。この日は、気象に不可欠な国際協力や、気象機関がどのような責任を果たしているかなどをPRする行事が、世界各国で行われます。

